

デジタル田園都市国家構想推進交付金事業 全体像

R5.3.22
DX推進協議会資料抜粋
(一部加工)

交付金事業

イメージ図

A) 行政関連サービス群

(データ連携基盤、コミュニケーションポータル、オープンデータ基盤、セキュアDB)

- A-1) データ連携基盤、コミュニケーションポータル（茅野市どっとネット）、
オープンデータ基盤（茅野市オープンデータカタログサイト） ※3/6公開予定
- A-2) セキュアDB ※構築済

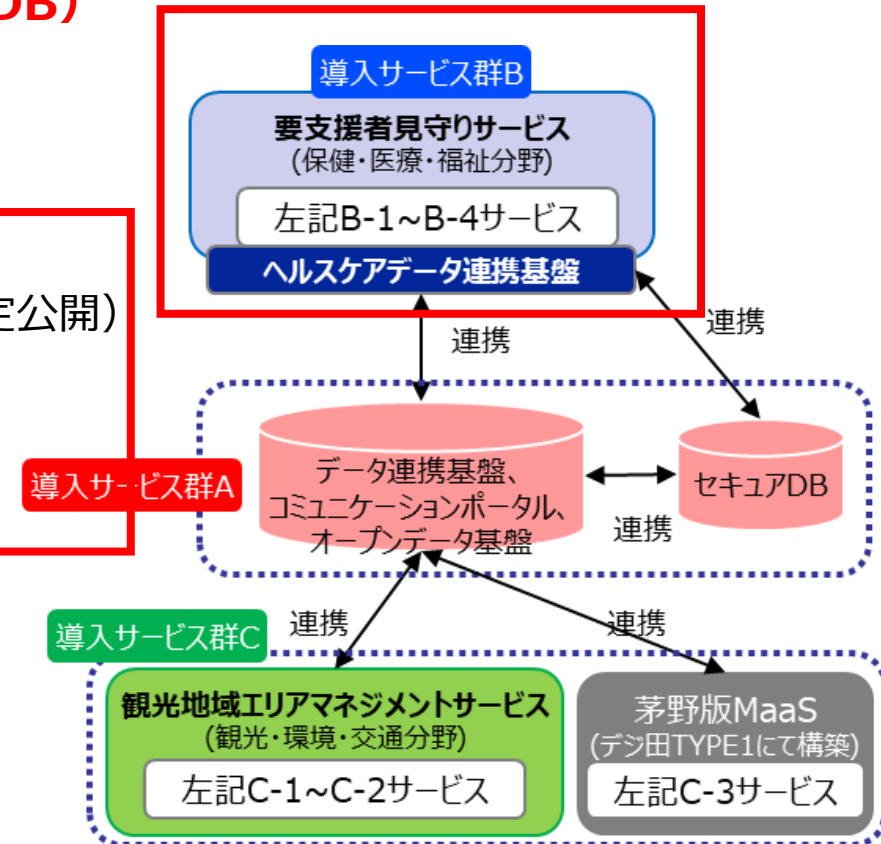
B) 要支援者見守りサービス群（保健・医療・福祉分野）

- B-1) PHR閲覧アプリ(ちのカル+ヘルスケアデータ連携基盤) ※3/20利用開始（限定公開）
- B-2) 家族・医療従事者向け見守りアプリ(やすらぎの丘スマート居室化) ※構築済み
- B-3) 在宅ケアにおけるセキュアな多職種コミュニケーション端末・アプリ(Mell+)
※システム構築済み。運用は4月以降を予定
- B-4) AIケアマネジメント支援アプリ ※3/末導入予定

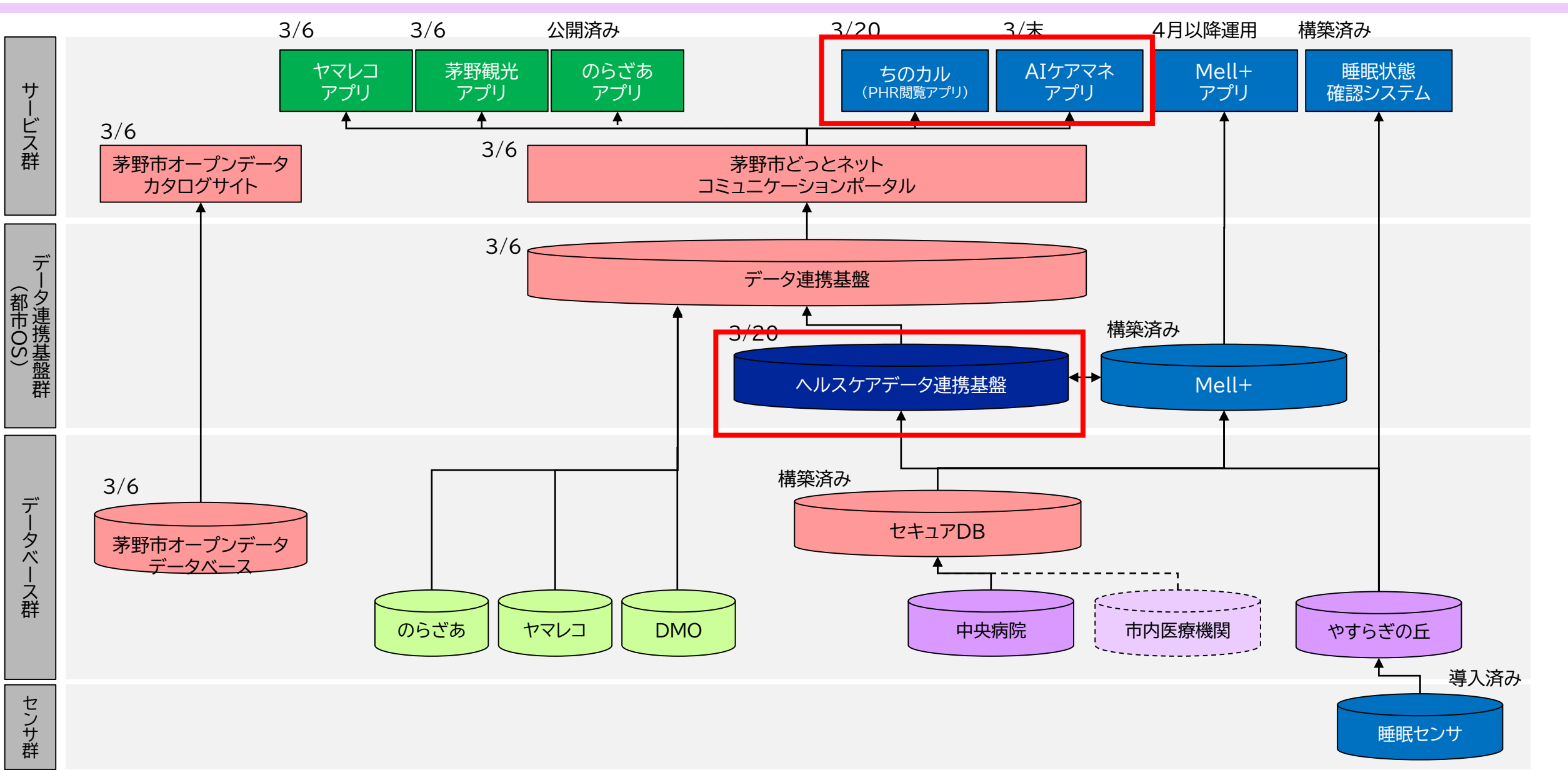
C) 観光地域（DMO）エリアマネジメントサービス群

(観光・環境・交通分野)

- C-1) 自然保全×登山客見守りアプリ(ヤマレコ) ※3/6公開予定
- C-2) 茅野観光アプリ ※3/6公開に向け作業中
- C-3) 茅野版MaaS（のらざあ） ※データ連携基盤との接続については調整中



デジタル田園都市国家構想推進交付金事業 システム全体像



デジ田で目指した方向性、目的

2022年デジ田時点での整理、構築システム

2025年時点での現状と展望

今後の方針(案)

ヘルスケア情報
(医療、介護、検診など)
の統合的データベース



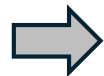
ヘルスケアデータ
基盤(HCDP)
SOMPOケア

自分のヘルスケアデータ
を確認できる環境を整備
することで、健康行動を
促進



ちのカル
(PHRアプリ)
SOMPOケア

AIがケアプラン等を提案
し、対物から対人業務へ
の移行を推進



AIケアマネ
SOMPOケア

医療、介護の多職種が
患者情報を共有し、
コミュニケーションが
取れるプラットフォーム



Mell+
(ハケ岳ケアネット)
ワイズマン

①国によるPMHの構築推進
②マイナポータル機能充実
③信州メディカルネットの
再構築検討
など状況の変化により
⇒国と地方の役割分担の
明確化が必要と判断
⇒市は健康づくり分野に特化

※PMH(Public Medical Hub):
自治体、医療機関、薬局などで、医療費
助成、予防接種、母子保健、介護保険な
ど公的制度の情報を安全に共有するた
めの情報連携基盤

※信州メディカルネット:信大病院を中
心に、NPO法人信州メディカルネット
協議会が運営する、長野県内の医療機
関相互で患者の診療情報を共有する
地域医療連携システム

AI技術の進展

加入事業者数増加
ユースケースが不足

PMH、マイナポータルの活用

信州メディカルネットの再構築

HCDP、PHRアプリの
グレードアップ

- ・目的の再明確化に伴い、他社と協働
してアプリをバージョンアップ
⇒利用拡大
- ・健康行動の目標と成果の見える化
- ・健康づくりポイント事業のデジタ化
⇒モチベーションアップ
- ・AIで健康リスクを推定し、ハイリスク
アプローチやEBPMを促進

Mell+

ワイズマン

- ・定期的な事業者ミーティングで利用
を加速